

◆優秀賞◆

保ご犬だったテオ

富士見小学校 五年

岡田 隼

ぼくは、保ご犬だった犬をかっています。名前はテオです。テオとの出会いは、保ご犬カフェです。そこには、けがをした犬や、治らない病気の犬がたくさんいました。その中でテオはとてもおく病そうに見えましたが、ぼくのひざの上では、いごこちがよさそうにしていたので引き取ることにしました。

テオはなぜ保ご犬になってしまったのかというと、ケンネルコフという犬の病気にかかってしまったからです。この病気は治りよう期間が長く、ブリーダーは売り時をのがしてしまって保ご犬カフェにじょとされました。実際に引き取つてから、三ヶ月以上病院に通いました。

なぜテオのような保ご犬ができるかというと、買い手はおさなくて、見た目のよい犬をほしがるからです。ぼくがペットショップで見た犬もそのような犬ばかりでした。ぼくたちが住んでいる神奈川県は十二年連続さつしょ分ゼロですが、他の県ではそうではないところもたくさんあります。病気やしそう害のある犬もさつしょ分になります。テオのように保ご犬として、引き取られるのはごく一部です。

保ご犬を減らすためにはどうしたらいいのかを自分なりに考えました。まず、ブリーダーになるための資かくがありますが、その試験をむずかしくしてほしいです。次に、売り手は、犬のはん売かくを高くして、気軽に

にこう入できないようにしてほしいです。最後に、買い手は、資かくをとらなければ犬をかうことができないようにしてほしいです。その資かくをとるためにには、医りようひ、ペット保けん、かいごについてを試験にふくむといいと思います。

実際にテオをかつてみて、大変なこともたくさんありますがうちにきてくれて毎日がとても楽しいです。そして犬は、感情豊かで、とても人に似ていると感じました。なので、捨てられる犬は、ショックが大きいと思うのでかん單に捨てられてほしくないです。

そして、まだまだ人に買つてもらうまでにいろいろな問題があります。ブリーダー、売り手、買い手全員が命にせきにんをもてるシステムが出来る日が来るとうれしいです。